



2014 ~ 2015 年度
R I テーマ

Light Up Rotary ロータリーに輝きを

国際ロータリー会長 ゲイリー C.K. ホアン (国籍・台湾)

2720 地区

別府中央ロータリークラブ



例会日 火曜日 12時30分
ところ ホテルニューツルタ 〒874-0820 別府市北浜1-14-15
TEL (0977) 22-1110 FAX 21-1019
事務所 別府市西野口町1番1号 青山通りビル 3F
〒874-0931 TEL (0977) 23-9000
FAX (0977) 23-9019
<http://www.beppu4rc.jp/chuo/>
E-mail: info@beppu4rc.jp

理事	前田 哲矢	理事	森 宗明	役員	会長	前田 哲矢	S A A	森園 伸也
〃	平野 教康	〃	梅津 圭二	副会長	副会長	平野 教康	直前会長	森園 伸也
〃	村津 忠久	〃	佐々木久宜	幹事	幹事	近藤 賢司		
〃	大江 知巳			会計	会計	西馬 良和		

VOL. 27 - 43
2015年6月2日

第 1236 回 例会

会報委員長 衛藤 秀子

- ◆点 鐘 12:30
- ◆国 歌 君が代
- ◆R S 奉仕の理想
- ◆唱 歌 知床旅情
- ◆ゲ ス ト ジュド デイルシヤンさん(米山奨学生)

会長の時間 会長 前田 哲矢

6月号のガバナー月信が配信されましたので、ご紹介致します。

『百里の道も』

小山康直ガバナー
 <皆さんに支えていただきながら歩んできたガバナーの任期も残すところあと一ヶ月となりました。[Light up rotary]

サンディエゴの国際協議会でのゲイリー C. K. ホアン R I 会長による R I テーマの発表を衝撃と感動を持って受け止めたことが、昨日のこのように思い出されます。

同期のガバナーたちとこれから始まる年度に大きな期待とかすかな不安を抱きながら、それぞれ自分の地区に戻って活動開始となりました。「百里の道も一歩から」

悩んでいる間はありません。早速、地区チーム研修、P E T S、地区研修・協議会と年度が始まるまでの大きな研修会の準備に入りました。とにかく動かなければ間に合わないという切羽詰まった状態でのスタートでした。

あと一ヶ月の時点のこのまで来て、「百里の道も」の続きは「九十九里をもって半ばとす」という言葉に変わっていました。これは、何事も終わりの方ほど困難であるから、九分どおりまで来てやっと半分と心得、最後まで気をゆるめるな、という戒めの言葉です。迷いながらも歩んできました。残された期間も一歩ずつ確実に歩を進めていきます。そして7月1日に野田三郎ガバナーに確

◆出席報告 委員長 津末美代子

本日 の 出 席	会 員 総 数	28 名
	出 席 者	13 名
	事前メイクアップ	0 名
	理 事 会 承 認	2 名
	出 席 免 除	3 名
前 々 回 の 訂 正	欠 席 数	10 名
	出 席 率	56.52 %
	出 席 率	80 %
	事後メイクアップ	1 名
	理 事 会 承 認	2 名
5/19	出 席 免 除	2 名
	修 正 出 席 率	88 %

連 続 一 回
通 算 749 回 100 %

・メイクアップ

事前
事後 村津 (別府東)
欠席 梶原、佐々木、島田、亀井、森園、大島、西林、村津、中尾、高宮
理事会承認 梶田、森
出席免除 溝部、河村、木村

実にバトンを渡します。

この一年間、忙しさは私のエネルギーの源でした。皆さんの支えがあってここまでやってきました。これまでに皆さんからお寄せいただいたご厚情に衷心より厚く感謝申し上げます。>

後、詳しくは地区ホームページをご覧ください。以上です。



幹事報告

近藤 賢司

ロータリー親睦活動月間一

1. 本日の卓話
「別府に生まれ 別府に生きる」鳴海淳郎会員
2. 本日のゲスト
ジュド デイルシャンさん (米山奨学生)



3. RI第2720地区2015-2016年度広報 (IT) 研修会開催のご案内 (大分・熊本)
*大分開催
日時 平成27年7月4日(土)14:00~17:30
場所 別府市社会福祉会館
別府市上田の湯町15-40 ☎0977-26-6070
*熊本開催
日時 平成27年7月11日(土)13:30~17:00
場所 グランメッセ熊本
上益城郡益城町福富1010 ☎096-286-8000
対象者 会長、幹事、クラブ広報委員長
※どちらかの研修会にご登録お願いいたします。
4. RI第2720地区2015-2016年度職業奉仕セミナーのご案内 (大分・熊本)
日時 平成27年7月18日(土)9:30~12:30
場所 ホルトホール大分 (大分駅南)
大分市金池南1-5-1 ☎097-576-7555
日時 平成27年7月25日(土)13:30~16:30
場所 熊本保健科学大学
熊本市和泉町325 ☎096-275-2111
対象者 クラブ会長、次年度クラブ会長予定者、クラブ幹事、奉仕プロジェクト委員長、職業奉仕委員長、他参加希望者
※どちらかの研修会にご登録お願いいたします。
5. 第9回臨時理事・役員会報告
(平成27年5月26日(火)例会終了後~ 於:ホテルニューツルタ 7名)

審議事項

- 1) 例会場の件。※交渉の確認
- 2) 大江知巳退会の件。(5月31日付) ※承認
6. 5月31日(日)9:30~大分ホルトホールに於いてRLI (ロータリー・リーダーシップ研究会) パートIが開催され、鳴海淳郎会員と梶原和朗会員が出席致しました。
7. 本日例会終了後、第12回定例理事・役員会を開催致します。

8. お祝い
結婚記念日 森 宗明さん (6月5日)
※記念品をお渡し致します。
9. 次回の予定
「会員卓話」前田哲矢会長
10. 本日の回覧
①「第5回(新・旧)クラブ協議会」出・欠席
②「会長・幹事慰労会」出・欠席
③ 別府中央RC親睦ゴルフコンペ
11. 本日の配布
① 週報No.1234

スマイルボックス

梅津 圭二

- 前田会長
目標達成 (10年ぶり)。80台狙います。
- 平野会員
先週の金曜日にホルトホールで終活セミナーを開催いたしました。前日 (5月29日) に大分合同新聞の朝刊に大きく取り上げられた為、満席になりました。感謝の気持ちをこめてスマイル!
- 村津会員
まだ休養中ですので今日の例会も欠席致します。メイキャップは6月12日に別府ロータリークラブで致します。ホームクラブ欠席と理事会欠席をお詫びしてスマイル。
- 森会員
別府中央ロータリークラブの皆さま。私森はしばし充電の為長期休暇をいただくことと致しました。
皆さんが一生懸命額に汗して働いている時に、申し訳ないですが「若い可愛いお姉ちゃんがあることか看護婦のコスプレで、ななななあんと、ボタン一つで夜中でも優しく手を握りに来てくれる、いつも明るい笑顔で癒してくれる」と言ったようなあっちあられん保養をして参ります。食事もカロリー管理がされていて完璧!
…と言う事で、皆さんから羨ましがられてちょこちょこ邪魔をされるとゆっくり休めませんので居場所は内緒…悪しからず。
9月には戻ろうかと思っておりますが、いごこち次第です。
それでは皆さんごきげんよう。
梶原さん、第一回アールブリュット展の件よろしくお願いたします。
とりあえず6月分のスマイル!
- 衛藤会員
光陰矢の如し、今日はもう6月ですね。
「われに似て深山の夏うぐいすあわれなり」
今日の卓話、鳴海先生、すごく楽しみにしています。
ジュド デイルシャンさん、ようこそ。どうぞごゆっくりなさって下さいね。



○佐藤会員

急な仕事がいっぱいだった為、途中で抜けます。すみません。

○近藤会員

とうとう前田会長がゴルフで念願の100を切りました。以前から「会長の任期中に100を切る」と公言していましたので、もし今月末までに100を切ることができなければ、来期も会長を続ける気持ちなのだ感じていました。そうすると私も来期まで幹事をやらなければならないのだと覚悟をしておりましたので、正直ホッとしました。

卓話

鳴海 淳郎

別府に生まれ 別府に生きる

わたしは大正15年1月1日この別府市に生まれたので、この正月で88歳を迎えました。また、皮膚科医になって60年、郷里・別府に帰って開業46年目になります。

この間、温泉と皮膚、スキンケアの第一歩である皮膚の清浄、とくに入浴の問題は、温泉地・別府に住む人にとっては切実な問題であり、常にわたしの脳裏から離れられない問題でした。

そのきっかけは、久しぶりに郷里・別府に帰り、徳川中期以降湧き出ている由緒ある自宅の温泉に入るようになって、たまたま冬という季節も手伝ってか、肌が荒れてきたことが非常に気になりました。

わたしの家は1803年以来回船問屋（屋号・菓子安、代々・菓子屋安兵衛を名乗る）をしていましたが、明治維新以後は菓子安という温泉宿をしていました。その先代が、いしゃ、それも皮膚科医となったわたしに『温泉と皮膚』というテーマを授けて呉れたものと思えてなりません。

§ 鳴海家の歴史

鳴海家の歴史

初代:	菓子屋安兵衛	・文化元年(1803) ・嘉永7年7月4日(1854)没(51才)
二代目:	菓子屋安兵衛	・天保9年(1838) 万延元年9月(1860)22才 ※ ・明治元年10月2日(1868)没(30才)
三代目:	菓子屋安米	・天保14年(1843) ・明治24年12月15日(1891)没(48才)
四代目:	鳴海安太郎 鳴海ユキエ	・明治37年9月28日(1904)没(37才) ・大正9年4月12日(1920)没(49才)
五代目:	鳴海敬子 鳴海 茂	・明治37年5月8日(1904)生 ・平成9年12月25日(1997)没(93才) ・明治31年5月7日(1898)生 ・昭和62年4月6日(1987)没(88才)

六代目: 鳴海淳郎 ・大正15年1月1日(1926)生
鳴海静子 ・昭和5年3月30日(1930)生

御講帳面箱について ※

「萬延元年庚申歳 九月吉祥日 新添」と書かれているように、1860年、当時22才の二代目・菓子屋安兵衛 が作製したものと思われる。



御講帳面箱

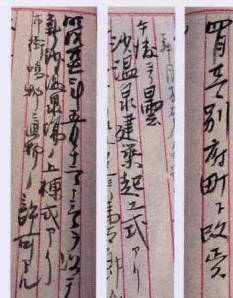


鳴海備忘録について

下記に示される4代目鳴海安太郎が書いた備忘録で、当時長崎で暮らしていた明治22年(22歳)1月1日からの日記で、内容はいろいろだが、明治の世相や別府に帰ってからは別府の歴史に關係する事項が散見される。



鳴海備忘録



葵の御紋入りの金杯と

当時、別府名産の生姜を大阪に積みだしたご褒美として、將軍家から頂いたものと聞いている。



葵の御紋入りの金杯



菓子安旅館の幕と印鑑



菓子安旅館時代の幕



菓子安印鑑

§ 温泉と皮膚

1. 温泉と皮膚に関する開業後の実績

- ・1969年1月：別府に帰省して診療開始
- ・1972年：第1回入浴調査
- ・1976年：第2回入浴調査
- ・1990年：第3回入浴調査
- ・2001年1月：「JN全身シャンプー」をつくる
- ・2001年7月：小著「温泉と皮膚」発行

2. 入浴調査について

*入浴状況

	昭和47年	昭和51年	平成2年
温泉	860人	755人	785人
わかし湯	88.6%	61.5%	56.8%
両方	11.3%	38.0%	40.4%
	0.1%	0.5%	2.8%

*入浴の頻度

	昭和47年	昭和51年
	860人	755人
1日3回	0.2%	—
1日2回	7.7%	2.1%
毎日1回	77.0%	84.1%
2日1回	12.1%	10.9%
3日1回	2.4%	1.5%
1週1回	0.6%	0.4%
その他	—	1.0%

*温泉入浴頻度と皮膚の状態

	入浴者数		かさかさしてかゆがる人の割合	
	47年	51年	47年	51年
1日3回	222人	464人	50.0%	—
1日2回	2人	—	42.8%	70.0%
毎日1回	28人	10人	14.2%	10.6%
2日1回	161人	395人	24.0%	7.0%
3日1回	25人	43人	0%	14.3%
1週1回	4人	7人	50.0%	25.0%
その他	2人	4人	—	—
	—	5人	—	—

過去3回にわたり、当クリニックの患者さんを中心に行った入浴調査の結果を次に掲げます。

3. 入浴調査のまとめ

- ・入浴状況：3回の入浴調査の結果、これは少し気になる場所ですが、第一回目の調査では温泉入浴者の割合が88.6%であったものが第2回目では61.5%、第3回目では56.8%と、温泉に入る人が少なくなる傾向にあることが伺われます。
- ・入浴の頻度：毎日1回入浴する人が一番多く、2日に1回がこれに次ぎ、1日に2～3回入浴する人がいるかと思えば、3日に1回、更に1週に1回しか入浴しない人がいるということがわかりました。
- ・温泉入浴頻度と皮膚の状態：1日2回以上入浴するとかゆみを訴える人が多く、反対にあまり入浴しないと、かゆみを訴えやすくなるということがわかりました。
- ・ナイロンタオル使用状況：ナイロンタオルを使用している人は1000人中246人で、その中の26人（10.6%）が色素沈着をきたしていることがわかりました。
- ・水虫の発生状況：1000人中185人が水虫にかかっており、趾間をよく洗う人の方が水虫の発生率が低いということがわかりました。

4. 温泉と洗剤

・温泉と普通の石けん

温泉で普通の石けんを使うと皮膚が荒れて痒くなる場合がありますが、硬度の強い温泉ほどこれは一層強くなります。

一般に硬水で石けんを使うと、カルシウム、マグネシウム、鉄、アルミニウムなどの塩類が石けんの脂肪酸基と結合して、水に溶けない金属石けん（俗に「浮きかす」という）をつくり、これが脂の取り除かれた皮膚を刺激することになります。

・中性洗剤の発展

そこで、この欠点をなくすために、中性洗剤が使われるようになったのですが、

・従来の中性洗剤の欠点

温泉で使っても石けんのような刺激はありませんが、「あか」や「よごれ」と共に角層中の脂肪分まで洗い落としてしまう欠点があります。しかも公害を残すことが欠点です。

・理想的なシャンプーをつくる

これは界面活性剤の配合に問題があり、一つのアニオン界面活性剤を配合した従来のシャンプーを改めて、一つのアニオン界面活性剤だけではなく、他のアニオン界面活性剤や両性界面活性剤をバランスよく配合すると、前述のような欠点がなくなり、東京の研究所に依頼して理想的なシャンプーをつくることが出来ました。（2000年1月）

・ジェイ・エヌ 全身シャンプーの特徴

温泉での使用に最適で、アトピーの人も安心して使える、これまでにない理想的な全身シャンプーです。

1. 『あか』や『よごれ』は取りますが、皮膚の脂を取りすぎることなく、しっとりとした皮膚を保護します。
2. 温泉で普通の石鹸を使うと、硬水の成分と反応して皮膚を荒らすので皮膚病を治り難しくしますが、このシャンプーではそのようなことは起こりません。
3. 普通の中性洗剤と違って、泡が分解しやすいために公害を残さず、環境にやさしいシャンプーです。



5. 小著「温泉と皮膚」について

以上の入浴調査に基づいて「入浴のアドバイス」、「温泉療法のコツ」について述べましたが、最後に次のことを強調しました。

温泉には不思議な力があり、場合には薬以上の効果が期待できる場合があります。

山登りなどをした後、その疲れや棒のようななった脚の痛みを癒すには、何といても温泉が一番です。しかしながら

現代医学の進歩に照らして、温泉の効用を見直すことが大切と思われまます。あまり温泉の効用を



過信してはいけません。

- ・例えば、昔のように温泉に入れば皮膚病が簡単に治るとか
 - ・泥湯に入れば皮膚がすぐにきれいになるとか
- 温泉を如何にうまく利用するか、温泉入浴を如何に効果的にするか、考えることが大切で、別府のめぐまれた温泉環境を最大限に利用して、別府の更なる発展を望む必要があります。

§ 別府市の将来について考える

別府は美しい海あり、山あり、それに加えて日本一の温泉もあり、観光立市のすばらしさを備えています。これが別府市における偉大な3大資産であります。

これは他に類をみないかけがえのないもので、この天与の資産を守り、これを別府のトレードマークとして今後の発展に生かすことが、わたしたち別府市民の使命です。



(イラスト：別府市観光課提供)

別府市の3大資源を生かした諸施策

宮崎交通の創始者で「宮崎観光の父」と呼ばれた故岩切章太郎氏は数々の名言を残されたかたですが、氏の言う「良い観光地」に必要な、自然の美と、人工の美と、人情の美という三つの美をころとして、別府市の3大資源を生かした諸施策を講ずることが必要と思われまます。

とくに、上記のイラストに示されるように、湯けむりは別府温泉のシンボルです。湯けむりが立ち上がる光景は温泉地ならではの情緒にあふれています。

油屋熊八が大阪商船で別府に着き、小船に乗りかえて船だまりに上がった時、蒼い鶴見岳、湯煙たなびく町、紺碧の澄んだ海に唸ったと言います。そして山と海と温泉の町・別府は今後観光客の心を大いにひきつけることになるだろうと言われている。

恵まれた海・山の自然の景観に加えて、別府市内約50平方kmにわたり、3000に近い泉源より1



日に約13万klもの温泉が昼夜の別なくこんこんと湧き出し、これが周囲の環境と相俟って湯けむりとしての風情を添えています。

別府がいかに発展しようとも、このかけがいのない「湯けむり」を失ってはなりません。

1. 温泉を生かしたプロジェクト

※ 別府が誇るべき温泉研究の歴史と今後の問題

- ・京都大学物理学附属地球熱学研究施設・・・大正12年12月に開設。一般物理学研究のほか、火山、地熱、温泉に関する研究と教育を目的としています。
- ・九州大学病院別府先進医療センター・・・昭和6年に温泉治療学研究所として建設され、内科ではリウマチ、膠原病の温泉治療施設として研究が続けられてきました。
- ・現在ではリハビリなどにも温泉を活用しています。
- ・原子爆弾被爆者別府温泉療養研究所（別府原爆センター）・・・原爆被爆者が温泉療養により心の安らぎが得られ、健康保持・増進を図るために設けられたものです。
- ・大分県温泉熱花き研究指導センター・・・温泉熱を利用した温室で様々な花の品質改良や生花の生産、研究を行なわれています。

わが国における温泉医療の研究は、世界に冠たるものがあり、これと平行して温泉保養地としての別府は非常に有名でした。ところが、九大温泉治療学研究所が廃止され、現在の九州大学生体防御医学研究所に変わってからは昔日の感なく、心寂しく思っている昨今です。どうか昔のように活発でありたいものです。

※ 温泉資源の多角的な活用について

温泉の健康への活用方法については、上記以外、予防医学・療養リハビリ・老化防止など、様々な活用が開発されていますが、「人々が心身ともに健康でいられるように支援するサービス業」としてのウェルネス産業を育成され、健康保養温泉地としての中心的役割を果たすことが望まれています。具体的には、医療機関との連携による健康診断プログラムの開発や、温泉泥を活用したエステ「ファンゴティカ」の商品化など、色々考えられますが、そのためには医療・公衆衛生機関との連携による「温泉医療の学術的実証」の推進が別府市におけるONSENツーリズムの基本戦略の一つの柱と謳われています。「以上、別府観光推進戦略会議（平成16年9月）の別府観光推進策に関する提言書より」

2. 山を生かしたプロジェクト

毎年4月の第2日曜日に実施される「鶴見岳一

気登山」もいよいよ今年で21回目を迎えますが、別府の山を生かした観光プロジェクトとして既に全国的な名物となっています。

なお、これに連動して別府中央ロータリー・クラブが創立以来平成2年より取り組んでいる「もみじ谷植樹」は、更なる活動の進展を図るため、平成18年より「特定非営利活動法人別府もみじ谷トラスト機構」を設立して実施されています。

これは、他に類例をみないプロジェクトで、かけがえのない天与の資産を守り、これを別府のトレードマークとして今後の発展のために生かすことは勿論のこと、環境保全に極めて重大な意義を見出すものとして注目に値するものであります。

3. 海を生かしたプロジェクトを考える

これに反して、海を生かした観光プロジェクトにはまだ見るべきものがなく、今後の課題として注目されているところです。

ところで、別府の海からの眺めの素晴らしさは世界に冠たるもので、昔から東洋のナポリと称されています。

このような素晴らしい自然環境に恵まれた別府ですが、今の別府の海岸線は、殆んど海辺にコンクリートの護岸や消波ブロックが並び、実に殺風景な感じを与えています。

この海岸線を美しく快適な海岸線に蘇らせるために、九州では久し振りの国による海岸保全施設整備事業と、県による新港湾計画が平成13年度から23年までの11ヵ年事業として始まっています。（国は、平成13年度に直轄事業として、総事業費162億円にのぼる事業実施を決定しました。）

そして、この一連の事業として、ヨットハーバーの拡張と、アリーナ機能の充実による海上レクリエーション基地をつくるべく事業が進められていますが、貴重な風景を世界中の人々に満喫して貰うよう別府の海洋レクリエーション基地を拡充することは、将来の別府にとって不可欠のことと思われる。

ヨットや高速艇などによる海上レジャーを更に大衆化して、別府に海のレジャー施設をつくることは、北浜のホテル旅館ならびに温泉施設と相俟って、内外からの観光客誘致に大いに役立つものと思われれます。

別府の将来を考えるにあたっては、もっとスケールを大きく、グローバルな考え方に立って世界の別府にすることが必要ではないかと、最後に申し述べたいと思います。

別府に生れたからには 将来の別府を夢見て
別府を世界の別府に